

ちむ美らさ

第111号

発行: 北部農林水産振興センター
農業改良普及課

住所: 沖縄県名護市大南1-13-11

電話: 0980-52-2752

FAX: 0980-51-1013



野菜産地活動表彰(創意工夫部門)で 大城淳吉氏(伊江村)が3年連続受賞!

目次

- 1P・創意工夫部門3年連続受賞「にんにく植付機」
- 2P・マンゴー開花期の管理
- 3P・サツマイモ基腐病
主な症状と対策
- 4P・地農指事業について

にんにく植付機を開発

賞

沖縄県では野菜の生産振興と地域農業への発展に貢献が顕著であった野菜生産農家及び生産団体に対して野菜産地活動表彰として創意工夫部門、おきなわブランド化貢献部門を贈呈しています。

今年度は野菜産地活動表彰(創意工夫部門)で伊江村の指導農業士である大城淳吉氏が昨年に引き続き3年連続受賞しました。大城淳吉さん、おめでとうございます!



(前列右から2番目大城淳吉氏)

※R元年度は「島らっきょうの除草培土同時作業器」、R2年度は「にんにくの低コスト貯蔵庫」で受賞しています。



にんにく植付機

(右:大城淳吉氏)



同機で植付後、発芽揃い、生育は良好。

既製品のパイプとクランプを使用し、材料費約1.5万円程度で安価に作成しています。また、接続部分にクランプを使い条間や植付深さの調整ができ、投入口にスポンジを設置し種球を投入しやすくしました。

使用方法は、同機をトラクターのロータリー後部に装着し、ロータリーをかけながら植え付けができます。手植えでは1日200坪程度ですが、同機による植付では約800坪植え付けができにんにく植付作業の時間短縮、労働力軽減が可能になりました。

(担当:上原、平松)



マンゴー開花期の管理 ハウスの温度管理を徹底し、着果率を向上させよう

花穂の伸長や、開花、花粉の発芽、受粉昆虫の活動に最も適した温度は**25℃前後**です。

35℃以上の**高温**や20℃以下の**低温**では、ミニマンゴーが多くなります。

訪花適温は18~25℃



ハウスの温度は、こまめなビニール開閉で受粉に適した**約25℃**に管理する！



花穂の包葉を除去しよう



比較的大きな葉を伴って伸長する花穂のことを「混合花」いいます。この葉は「包葉」といい通常は自然に落ちますが**30℃以上の高温**になると脱落せず、花芽が発育できなくなります。この包葉を除去すると花芽は正常に生育するので、できる限り除去しましょう。



混み合った枝は整理しよう

枝数が多く、混み合っている園では、出蕾確認後、**貧弱な枝**や**日当たりの悪い枝**、**花芽分化していない枝**を中心に**間引きせん定**をしましょう。

園全体の風通しや日当たりが向上し、果実品質が良くなります。

注意！

①せん定が強すぎると、来年の開花に影響します。**せん定量は樹全体の2割程度**に止めましょう！

②せん定で新芽を発生させると害虫の餌場になります。**新芽がでないよう間引きせん定**を行いましょう！



(担当:儀武)

サツマイモ基腐病に注意!!

(もとぐされびょう)

サツマイモ基腐病とは・・・？

2018年に国内で初めて確認されたかんしょの病気です。
この病気がまん延すると、つるが枯れ、イモが腐り、収穫量が激減します。本病は一度かんしょ畑に持ち込まれると、病原菌が定着し、栽培するたびに大きな被害を受けることになります。



主な症状



葉、茎のしおれ



地際をつるの一部の枯死



枯れ上がり



芋の腐敗

主な対策

排水対策：

基腐病は、排水不良な場所でまん延しやすいため、作付け前に圃場排水対策を行いましょ。例えば、排水溝が土砂で、埋まっていないか確認しましょ。



排水溝がない圃場では明渠を掘る

生育期の対策：

生育初期は、定期的に登録農薬を散布しましょ。銅水和剤は、散布する回数が多い程、感染の予防は期待できます。まとまった降雨の前と後の散布は感染防止や発病抑制効果が期待されます。なお、農薬使用にあたっては、ラベル記載事項に従いましょ。

健全苗の確保：

基腐病が多発したほ場からの種芋の使用、つる枯れが多発しているほ場からの採苗はやめましょ。苗消毒を行いましょ。



薬液に所定の時間浸す

※残った薬剤は、適切に処分しましょ

収穫前後の対策：

基腐病は、ゆっくりと広がるのでできるだけ在圃期間や保存期間が短くなるようにしましょ。また、収穫後の残渣を残さないよう、圃場外に持ち出すか、速やかに耕耘等によりかんしょの残渣物を粉碎し、分解を促しましょ。可能であれば連作は避けましょ。

恩納村で農業振興取り組み中！

～地域農業振興総合指導事業～



令和2年度から3年間の計画で、恩納村喜瀬武原地区において「農業生産振興」と「リーダーの育成」を推進しています。

今年度は、新たに経営分析や土壌診断に取り組みました。特に葉の黄化に悩んでいる葉物農家の土壌分析や、認定新規就農者の経営分析から経営改善計画書の作成及び当地区の認定農業者の増に取り組みました。



農業クラブ役員との意見交換



経営管理講習会
(経営マネジメント)



先進地視察 (ドラセナ篤農家)



栽培技術講習会
(土壌病害対策)



展示ほ現地検討会
(小ギク土壌消毒)



展示ほ生育調査
(小ギク土壌消毒)

- 栽培技術講習会では、土壌病害対策をテーマに外部講師を招聘し開催しました。他県の事例や改善点が紹介され、土壌消毒の知識が高まりました。
- 展示ほについては、昨年度、小ギク栽培で青枯病が多発したほ場があったことから、土壌病害対策で展示ほを設置しました。定植後、立ち枯れの発生はほぼ無く、生産者自身も効果を実感していました。
- 経営管理講習会では、儲けについての考え方や経営マネジメントについて説明した結果、経営改善に意欲的となり、参加者全員が認定農業者を目標に経営改善計画書の作成に取り組むことになりました。まずは作付計画書の作成に取り組み、ほ場毎の作業計画を確認しました。

普及課では地域振興支援チームを立ち上げ、引き続き農業クラブや関係機関と連携し、「生産技術指導」、「経営管理の向上」、「リーダー育成」を柱に、産地を活性化していくための取組を実施し、さらなる農業生産の振興を目指していきます。